

第 19 回 NOMURA Award（特別賞）受賞者コメント

豊島岡女子学園中学校 岡崎 幸見 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

本校にて勤務を始めた 1 年目に、先輩の山本実先生から引き継ぎました。意欲ある生徒が株式投資の疑似体験を通じて、経済のしくみについて自主的に学べるよう見守っていこうと思いました。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

基本的に生徒の自主性に任せていますが、株価の変動に一喜一憂するのではなく SRI を常に意識するようにと伝えています。

第 19 回 NOMURA Award（特別賞）受賞者コメント

大阪府立西寝屋川高等学校 服部 有晋 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

「社会」の動きを数値で見ることができるものの 1 つが株価であると考えています。民間企業で 20 年近く勤務してきたため、教員となってからは高校生にこの「社会」の動きを肌で感じて欲しいと常に考えていました。そのような中、株式を通じて経済に触れその面白さが実感できる日経 STOCK リーグは生徒にとって打って付けのプログラムだと感じました。生徒には株価の上下に一喜一憂するのではなく、投資は企業を応援すること。そしてその企業を応援することが社会、企業、自分に何をもたらすのかを考えさせています。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

日経 STOCK リーグの取り組みについて

レポートは「成果を述べるものではなく、経験を述べるもの」という持論からフィールドワークを勧めています。しかし実際に行動に移すにはハードルが高いです。しかし今年は昨年のリベンジを誓った生徒がリーダーを務めたこともあり、積極的にテーマに沿った現場に赴きました。

レポートも終盤に近づいた頃、この活動を知った教員が生徒に質問をした際、自信をもって説明する姿は頼もしく、誇らしく感じました。その上、本校で初の入賞をいただき、継続による生徒の成長を実感しました。

参加を終えて

近年大学のAO入試において日経STOCKリーグに参加した生徒がその経験を活用して合格しており、その知名度と評価の高さを感じています。そして何よりレポートが完成したときの満足感・達成感を生徒と共感できる点は、まさに教員の醍醐味です。本校では毎年1チームしか参加できていませんが、今後も興味を持つ生徒がいる限り指導していきたいと思っています。

第19回 NOMURA Award（特別賞）受賞者コメント

埼玉県立伊奈学園総合高等学校 高橋 正人 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

当時、今から二十年以上前になりますが、「国際経済」という科目を担当していた頃、校内のインターネット環境が整ってきたこともあり、何かネットワークを活用して、生きた経済を学べる教材はないかなと思案していました。そんな折、ふと思いついたのが私自身の興味関心分野でもある株式投資から、「ネットワークを活用した株式の仮想取引」というものでした。

早速探したところこのストックリーグに出会うことができました。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

日経 STOCK リーグの取り組みについて

ストックリーグに参加した最初の年は、女子だけの10人程度の人数で2班編成にして参加しました。週2時間の授業の中で、2学期から3学期初めにかけて取り組みました。最初の年だったので、暗中模索の部分もありましたが、ストックリーグの学習材料にも助けられ、何とかレポートを提出できました。近所の保育園などにも取材に行き、2班のうちの一つはもう少しで最終選考に残る、惜しいところまでいきました。

参加を終えて

「貯蓄から投資へ」という理念は正しいと思います。私たちは今、資本主義経済という体制の中におります。もし、多くの上場企業で個人投資家が大半を占めていたら、企業が成長することで生じる果実、毎年の利益から生まれる配当、その多くを私たち国民投資家が直接に享受できます。企業は株主の顔色を伺うことなく長期的なヴィジョンを描き、また、株式が多くの個人に分散するので経済全体のリスクは大きく軽減されます。何よりも企業があげたより多くの利益が日本国民に還元される。これほどすばらしい企業にとっての社会貢献、やりがいはないと思います。

第19回 NOMURA Award（特別賞）受賞者コメント

関西大学 田村 香月子 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

日経 STOCK リーグは以前から新聞等で知っておりましたので、2年次ゼミを担当する際に参加し始めました。経済や証券に実際に触れる機会を設けることと、証券市場の分析をテーマとした3年次ゼミへ向けて研究の基礎力を鍛えることが目的です。理論と実践のインプット・アウトプットを自主的にバランス良く学習できる日経 STOCK リーグは、日頃座学の多い学生にとって貴重な機会となっています。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

日経 STOCK リーグの取り組みについて

本学商学部の2年次ゼミは秋学期の開講ですので、学生は他の多くの参加者に比べ短い期間で日経 STOCK リーグに取り組んでいます。ですからテーマ設定やスクリーニングなど、課題ごとに目標を設定し取り組めるようにしています。とはいえまだ2年生ですので金融や証券の専門的な学習もレポートを書いた経験も少なく、時間も少ない中で相当苦労しながら進むのですが、グループワークを通じて自分の役割を見つけ、責任感を持って取り組むようになるようです。日々の経済に敏感になりますし、日経 STOCK リーグが終わった後も自分が分析した企業の情報や株価を確認し、実際に投資する学生もおりました。

参加を終えて

毎年の取り組みは試行錯誤の連続ですが、学生の成長を目にするたび、日経 STOCK リーグに参加して良かったと感じています。最後に、このような素晴らしい賞をいただけたのは、関西大学のゼミ生達のおかげです。来年度からも入賞を目指して共に取り組みたいと思います。

第19回 NOMURA Award（特別賞）受賞者コメント

横浜国立大学 大雄 智 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

日経 STOCK リーグには、例年、2年次のゼミの一環として参加しています。ゼミでは財務会計と企業分析をテーマにしていますが、教科書で会計のルールや財務分析の手法を学ぶだけでなく、現実の市場や企業の動きに目を向け、それらとの関係のなかで会計の役割を考えてほしいと思ったのが参加のきっかけです。また、個人ではなくチームで取り組むコンテストですので、チームで成果を上げるにはどうしたらよいか、試行錯誤してもらうことも参加の狙いの一つです。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

日経 STOCK リーグの取り組みについて

投資テーマの決定からレポートの作成までゼミ生が主体性を持って取り組んでいますが、国内外の経済・社会の情勢を踏まえて投資テーマを決める作業はいつも難航し、いったん決めた投資テーマが、スクリーニングに入ってから見直しを余儀なくされることも珍しくありません。そのようなときには、少し視点を変える質問をして、あとはゼミ生が解決するのを待つことにしています。投資のテーマとコンセプトを決定するまでの紆余曲折は、ゼミ生にとって成長の糧となる貴重な経験であるとともに、私にとっても彼らとの信頼関係を構築する大切な機会です。

参加を終えて

2年次で日経 STOCK リーグに参加したあと、3年次のゼミでは、毎回の冒頭に、日経新聞の投資情報面やマーケット総合面の記事をゼミ生に解説してもらうことにしています。ゼミ生が選んだ記事のなかには、しばしば、前年度に取り組んだ投資テーマと深く関連するものがあり、問題意識を持続していることが窺えます。素晴らしい学習の機会を提供いただいたこと、また、ゼミ生の聞き取り調査にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。